

PRESS RELEASE

令和3年10月27日
国立大学法人 高知大学
学校法人 静岡理科大学
国立大学法人 宮崎大学

高知大学、静岡理科大学、宮崎大学が形成する研究チームが STI for SDGs アワードの優秀賞を受賞

この度、高知大学自然科学系理工学部門の原忠教授、静岡理科大学土木工学科設置準備室の中澤博志教授、宮崎大学工学部工学科土木環境工学プログラムの末次大輔教授らの研究チームの取組が、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が実施する STI for SDGs アワードで優秀賞を受賞しました。

1. 「STI for SDGs」アワードとは

JST が実施する、科学技術イノベーション（Science, Technology and Innovation：STI）を用いて社会課題を解決する地域における優れた取組を表彰する制度（2019 年度創設）。本制度を通じ、当該取組のさらなる発展や同様の社会課題を抱える地域への水平展開を促し、SDGs の達成に貢献することを目的としています。（参考：<https://www.jst.go.jp/sis/co-creation/sdgs-award/>）

2. 受賞した取組

取組名：「防災と環境を両立する「蛇籠技術」の普及に向けた機関横断型の取り組み」

取組概要：近年、大規模災害が増加傾向にあり、水害や地震などによる土砂災害の発生は人々の生活と生命を脅かす大きな問題となっています。本取組では、高知大学、静岡理科大学及び宮崎大が連携し、伝統的土木技術「蛇籠」の耐震性を参画機関の強みを生かしながら定量的に分析し、科学的知見から解明しました。さらに、耐震性を高める資材選定や設計、施工法を特定するとともに、安価で技術力も問われない環境に配慮した土木技術として技術普及を目指し、国内外への展開を実施してきました。

3. 受賞理由

本取組は、持続可能性が高いことや最新の技術でなくとも STI の活用により社会課題の解決に貢献できる好事例となること、住民参加型の活動へ発展可能なことなどが高く評価されました。また、伝統的な土木工法により水害や土砂災害などの気象災害に対するレジリエントな対応が可能であることは、柔と剛の両面を組み合わせた災害対応のひとつの選択肢になり得、SDGs 1、9、11 及び 17 の達成に貢献する取組として広く展開できることが期待されます。

PRESS

RELEASE

令和3年10月27日
国立大学法人 高知大学
学校法人 静岡理科大学
国立大学法人 宮崎大学

4. 表彰式等

JST 主催のサイエンスアゴラ 2021 内で、令和3年11月3日(水)19時～21時に受賞発表イベント(オンライン)が行われます。当日の様子は後日サイエンスアゴラ公式サイトにてアーカイブ配信されます。

(参考：<https://www.jst.go.jp/sis/scienceagora/2021/>)

5. 本件に関するお問い合わせ先

高知大学総務課広報室 (TEL : 088-844-8643 MAIL : kh13@kochi-u.ac.jp)

静岡理科大学総務部社会連携課 池田・中村 (TEL : 0538-45-0108 MAIL : shakai@sist.ac.jp)

宮崎大学企画総務部総務広報課広報係 (TEL:0985-58-7114 MAIL : kouhou@of.miyazaki-u.ac.jp)